



海軍公報 第四八二九號

昭和十九年十月十八日(水) 海軍大臣官房

命令 達

達第三四七號 海軍工員戰時特例給與規則左ノ通定ム

昭和十九年十月十四日

海軍大臣 臣

海軍工員戰時特例給與規則

第一條 海軍工員及鑛員(以下單ニ工員ト稱ス)ニシテ海軍戰時特例給與規則第一條ニ掲グル地(以下戰地ト稱ス)ニ在ルモノ、派遣セララルモノ若ハ一時往復スルモノ又ハ戰地派遣ノ艦船ニ乗組ノモノ若ハ戰時編制ニ依ル艦船ニ乗組ノモノノ給與ハ本則ニ依ル本則中特ニ定メタルモノノ給與ニ付亦同ジ本則ニ明文ナキモノニ付テハ現行ノ諸規定ニ依ル

第二條 前條第一項前段ノ規定ニ該當スル工員ノ給料、増給、乗艦加給及臨時手當ハ廳長必要ト認メタルトキハ月ノ十六日以後ニ於テ其ノ月分ヲ支給スルコトヲ得

戰地ト戰地外トノ間又ハ戰地相互間ヲ轉用スル工員ノ給料ハ出發ノ月ノ末日迄出發廳(派遣元廳)ヨリ戰地ニ派遣セララル者ニ在リテハ派遣元廳)ニ於テ之ヲ支給ス

前項ノ規定ニ依リ前勤務廳ニ於テ支給シタル給與ニシテ前勤務廳出發後發生シタル事由ニ因リ過拂又ハ不足拂ト爲リタルト

キハ後勤務廳ニ於テ之ヲ處理スルモノトス

第三條 第一項前段ノ規定ニ該當スル工員ノ給料、増給、乗艦加給及臨時手當ハ其ノ月分ヲ含ミ三月分以内ニ於テ前金拂ヲ爲スコトヲ得

第四條 艦船ノ破壊、沈没其ノ他公務上ノ非常ノ災害ニ因リ廳長必要アリト認メタルトキハ工員ニ對シ給料、増給、乗艦加給及臨時手當ノ一月分ヲ前金拂ヲ爲スコトヲ得

第五條 第一項前段ノ規定ニ該當スル工員ニハ第一表ニ依リ増給ヲ支給ス

第六條 第一項前段ノ規定ニ該當スル工員ノ給料及増給ハ故意又ハ自己ノ重大ナル過失ニ依ル傷痍疾病ニ因リ休業スル期間ヲ除キ日數ニ應ジ之ヲ支給ス但シ増給額ニ異動ヲ生ジタル當日ハ多額ニ依ル

前項ノ増給ハ戰地ニ向ケ出發スル者ニ在リテハ其ノ日ヨリ、既ニ派遣中ノ者ニ在リテハ開戰ノ日ヨリ任務ヲ了ヘ歸着ノ日又ハ給與停止ノ前日迄之ヲ支給ス

第七條 工員戰地ニ於テ勤務中傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ戰地外ニ於テ療養中ハ指定ノ病院又ハ療養地到着ノ日ノ翌日ヨリ退院又ハ療養地出發ノ日ノ前日迄給料ノ四分ノ一ノ増給ヲ支給ス戰地ニ一時往復ノ途中ニ於テ公務ニ因ル傷痍ヲ受ケ又ハ

秘海軍公報 第四八二九號 昭和十九年十月十八日

一三八七

疾病ニ罹リ入院又ハ療養中ノ者ニ付亦同ジ

第八條 第一條第一項前段ノ規定ニ該當スル工員死亡シタルトキハ其ノ給料、増給、乗艦加給及臨時手當ハ之方支給停止中ノ場合ヲ除ク外死亡公表ノ日ノ屬スル月ノ末日迄從前ノ額ヲ支給ス但シ死亡公表シタル場合ト雖モ既ニ前金拂ヲ爲シタル給料、増給、乗艦加給及臨時手當ニ付テハ前金拂ノ日ノ現在ノ給料、増給、乗艦加給及臨時手當ニ依リ其ノ前金拂ニ係ル月分迄之ヲ支給ス

死亡ノ日昇級アリタル場合ニシテ死亡ノ月ニ於テ死亡公表ノアリタルトキハ第一項本文ノ規定ニ拘ラズ辭令ノ日以後新給額ヲ支給ス

死亡ノ日ノ屬スル月ノ翌月以後ノ臨時手當ハ第一項本文ノ規定ニ拘ラズ其ノ支給ヲ停止ス

第一項及第二項ノ規定ハ戰地ニ在ラザルモ特別ノ命令ニ依リ對敵ノ行動ヲ取ル各部ニ在ル工員ニ付之ヲ準用ス

第九條 第一條第一項前段ノ規定ニ該當スル工員擅ニ職務ヲ離レ若ハ他方ニ赴キ故ナク歸着ノ期ニ後レタルトキ又ハ留置、勾留、處刑、處罰若ハ被告事件ノ爲護送中ハ其ノ當日ヨリ出務ノ日ノ前日迄給料、増給、乗艦加給及臨時手當ヲ支給ヲ停止ス但シ被告事件不起訴、免訴若ハ無罪ト爲リタルトキ又ハ被告事件繫續中死亡シタルトキノ給料ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ前項ノ規定ニ依リ給料、増給、乗艦加給及臨時手當支給停止

ノ場合ニ於テ海軍懲罰令第三十條ノ規定ニ依リ勤務ニ服セシムルトキハ其ノ間之ヲ停止セズ

第十條 第一條第一項前段ノ規定ニ該當スル工員敵ノ俘虜ト爲リタルトキハ其ノ翌日ヨリ復歸ノ前日迄増給ノ支給ヲ停止ス

第十一條 艦船乗組ノ工員ニハ第二表ニ依リ乗艦加給ヲ支給ス前項ノ加給ノ支給区分ハ軍人ノ航海加俸支給ノ例ニ依ル

第十二條 支那ニ在ル陸上ノ部隊其ノ他ノ各部ニ勤務スル工員ニシテ家族ト同居スルモノニハ工長ニ在リテハ月額百圓、其ノ他ノ者ニ在リテハ月額八十圓ノ特別手當ヲ支給ス

前項ノ家族トハ配偶者(届出ヲ爲サザルモ事實上婚姻關係ト同様ノ事情ニ在ル者ヲ含ム)及十八歳未滿ノ子ヲ謂フ

第十三條 前條ノ特別手當ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ之ヲ支給セズ

- 一 一年齡二十五年未滿ノ者
 - 二 一年未滿ノ豫定ヲ以テ支那ニ勤務スル者
 - 三 二年未滿ノ豫定ヲ以テ海軍ニ勤務スル者
 - 四 艦船乗員又ハ艦船乗組ノ配置ニ在ル者
 - 五 海軍部外ニ在職スル者
 - 六 其ノ他所屬長官ニ於テ支給ヲ要セザルモノト認ムル者
- 第十四條 第十二條ノ手當ハ左ノ區分ニ依リ之ヲ支給ス
- 一 家族工員ノ在勤應所在地ニ到着ノ日ヨリ工員退離ノ日又ハ家族工員ノ勤務應所在地ニ在ラザルニ至リテ日迄トス
 - 二 手當ノ額ニ異動ヲ生ジタルトキノ新給與額ハ其ノ日ヨリ

トス

三 所屬ヲ轉ジタル場合ニ於テ新舊兩廳ニ跨ル日ノ手當ヲ支給スルハ新勤務廳トス

第十五條 支那ニ在ル艦船部隊其ノ他ノ各部ニ勤務スル工員ニハ増給及乗艦加給ノ五割ニ相當スル額ヲ臨時手當トシテ支給ス

前項ノ手當ノ支給區分ハ陸上ノ部隊其ノ他ノ各部ニ勤務スル者ニ在リテハ勤務廳ニ到着ノ日ヨリ退廳ノ日又ハ給與停止ノ日ノ前日迄、艦船乗組中ノ者ニ在リテハ支那沿岸ニ到着ノ日ヨリ其ノ沿岸ヲ出航ノ日迄之ヲ支給ス

第十六條 第十二條ノ規定ニ依リ特別手當ノ支給ヲ受クル者ニハ特別手當ノ二十割ニ相當スル額ヲ臨時手當トシテ支給ス

前項ノ手當ノ支給區分ハ特別手當支給ノ例ニ依ル

第十七條 第十二條ノ規定ニ依リ特別手當ノ支給ヲ受クル者ニハ其ノ間臨時家族手當ノ六十割ニ相當スル額ヲ臨時手當トシテ支給ス

前條第二項ノ規定ハ前項ノ手當ニ付之ヲ準用ス

第十八條 第一條第一項前段ノ規定ニ該當スル工員ニ支給スル旅費ハ鐵道賃、船賃、車馬賃及手荷物運送料ノ實費並ニ日當、宿泊料及食卓料トス但シ日當、宿泊料及食卓料ハ本邦(千島諸島、小笠原諸島、新南群島及南洋群島ヲ除ク)内ノ旅行ニ在リテハ海軍内國旅費規則第五表ニ依リ、戦地外各地ト戦地トノ間又ハ戦地相互間ニ在リテハ戦時軍人軍屬旅費特例第二

條乃至第六條、第八條乃至第十一條ノ四ノ規定ニ依リ之ヲ支給ス

前項ノ規定ニ依ル旅費ニ付テハ戦時軍人軍屬旅費特例第十九條、第二十條及第二十一條ノ規定ヲ準用ス

艦船便乗ニ依リ旅行スル者ニハ糧食ヲ給與シ食卓料ハ之ヲ支給セズ但シ糧食ノ給與ヲ受ケザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十九條 廳長必要ト認メタルトキハ前條ノ規定ニ拘ラズ旅費ノ定額ヲ減ジ又ハ旅費ノ一部若ハ全部ヲ支給セザルコトヲ得

第二十條 工員ノ採用應募者トシテ出頭シタル者ニ對シテハ廳長必要アリト認メタルトキハ日額二圓以内ノ旅費ヲ支給スルコトヲ得

第二十一條 工員ニシテ戦地ニ在ルモノ又ハ派遣セラレルモノニハ派遣手當トシテ一回限り給料ノ三十日分ヲ支給スルコトヲ得

戦地ニ一時往復スル工員ニハ前項ノ派遣手當ノ半額ヲ支給スルコトヲ得

前二項ノ派遣手當ハ出發廳(派遣元廳アル者)ニ付テハ派遣元廳)ニ於テ之ヲ支給ス

第二十二條 前條ノ規定ニ該當スル者ニハ支度料ハ之ヲ支給セズ

第二十三條 第一條第一項前段ノ規定ニ該當スル工員ニシテ乗組艦船ノ破壊、沈没又ハ航空機ノ事故其ノ他不可抗力ニ依リ被服物品ヲ亡失シ又ハ毀損シ使用ニ堪ヘザルニ至リタルトキ

戰海軍公報 第四八二九號 昭和十九年十月十八日

一三八九

ハ海軍戦時給與規則施行細則第十七條ノ規定ニ拘ラズ百二十
間以內ノ遭難服裝手當ヲ支給スルコトヲ得

前項ノ手當ハ遭難者初メテ本邦港灣ニ到着シタルトキ該港灣
ヲ警備區トスル鎮守府又ハ警備府所在地ノ海軍經理部ニ於テ
之ヲ支給スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ手當ヲ支給シタルトキハ遭難者ノ廳長、派
遣元廳ノ長又ハ殘務整理班ノ所屬鎮守府所在地ノ海軍經理部
長ニ之ヲ通報スルモノトス

前三項ノ規定ハ戰地ニ在ラザルモ特別ノ命令ニ依リ對敵ノ行
動ヲ取ル各部ニ在ル工員ニ付之ヲ準用ス

第二十四條 第五條ノ規定ニ依リ増給ヲ受クル者ニハ戰時海軍
工員規則第五十二條乃至第五十五條及第六十三條ノ規定ハ之
ヲ適用セズ

第二十五條 工員ニシテ戰地ニ在ルモノハ之ヲ宿舍ニ起臥セシ
ム

前項ノ規定ハ戰地ニ派遣セララルル目的ヲ以テ採用又ハ徵用セ
ラレタル工員戰地ニ出發前戰地外ニ待機中ノ期間ニ付之ヲ準
用ス

第二十六條 第十二條ノ規定ニ依リ特別手當ノ支給ヲ受クル者
ニハ第三表ニ依リ家具ヲ貸與スルコトヲ得

第二十七條 第一條第一項前段ノ規定ニ該當スル工員ニハ第四
表ニ依リ被服物品ヲ貸與スルコトヲ得
前項ノ被服物品ハ戰地ニ向ケ出發ノ際出發廳(派遣元廳)アル

者ニ付テハ派遣元廳)ニ於テ之ヲ貸與スルコトヲ得

第二十八條 第一條第一項前段ノ規定ニ該當スル工員ニハ糧食
ヲ給與ス但シ現品ヲ以テ糧食ヲ給シ難キトキハ一食ニ付三十
錢ノ食料ヲ支給ス

前項ノ規定ハ戰地ニ派遣セララルル目的ヲ以テ採用又ハ徵用セ
ラレタル工員戰地ニ出發前戰地外ニ於テ官ノ施設ニ起臥スル
期間ニ付之ヲ準用ス

前二項ノ糧食ハ最寄海軍軍需部(特設海軍軍需部ヲ含ム)又
ハ艦船部隊ヨリ其ノ供給ヲ受クルコトヲ得

第二十九條 第十二條ノ規定ニ依リ特別手當ノ支給ヲ受クル者
ニハ前條ノ規定ニ拘ラズ第五表ニ依リ糧食及薪炭ヲ給與ス

第三十條 工員ニシテ戰地ニ在ルモノ又ハ昭和十六年官房機密
第一二六三九號第一項第一號若ハ第二號ニ該當スル各部ニ在
ルモノニハ第六表ニ依リ戰時特別給與品ヲ給與ス

第三十一條 第一條第一項前段ノ規定ニ該當スル工員傷疾ヲ受
ケ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ治療費ハ之ヲ官費支辨トス

第三十二條 第一條第一項前段ノ規定ニ該當スル工員死亡シタ
ル場合ニ於テハ官ニ於テ之ヲ埋葬シ又ハ其ノ死體、遺骨、遺
物等ヲ遺族若ハ故舊ニ引渡ス爲必要ナル諸費ハ之ヲ官費支辨
トス

前項ノ場合其ノ死體、遺骨、遺物等ヲ遺族又ハ故舊ニ引渡ス
トキハ其ノ際葬祭料トシテ工長ニ在リテハ四十五圓、其ノ他
ノ者ニ在リテハ三十七圓五十錢ヲ支給ス

前二項ノ規定ハ戰地ニ在ラザルモ特別ノ命令ニ依リ對敵ノ行
動ヲ取ル各部ニ在ル工員ニ付之ヲ準用ス

第三十三條 第一條第一項前段ノ規定ニ該當スル工員職務上傷
疾ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキハ傭人扶助令ヲ
適用ス

前項ノ扶助金算出ノ標準タル給料ハ戰地ニ向ケ最終ニ戰地外
ノ地ヲ出發ノ日ヨリ最初ニ戰地外ノ地ニ到着ノ日迄ノ期間ニ
於テ職務上受傷、罹病又ハ死亡(派遣元廳ニ復歸後之ガ爲死
亡シタル場合ヲ含ム)シタル場合ニ於テハ之ヲ給料及増給給
料ノ二十割トス)ノ合計額ト爲スモノトス

第三十四條 廳長前條ノ規定ニ該當スル工員ニシテ派遣元廳ア
ルトキハ雇員傭人扶助金支給細則第二條ニ規定スル書類作成
ニ必要ナル資料ヲ其ノ派遣元廳ニ送付シ派遣元廳ハ同條ニ規
定スル書類ヲ作成シ扶助金ヲ支給シ同廳所管ノ鎮守府又ハ警
備府所在地ノ海軍經理部(東京都ニ在ル派遣元廳ニ在リテハ
海軍省經理局)ニ請求スルモノトス

第三十五條 派遣元廳アル工員ノ給料、増給、賞與(誓約賞與
ヲ含ム)及臨時家族手當ハ海軍軍人軍屬俸給家族下渡規則ニ
定ムルモノヲ除クノ外派遣元廳ニ於テ之ヲ支給ス

派遣元廳ニ於テ支給スル給與ニシテ之ヲ受取ルベキ家族ナキ
トキハ給與掌理者ハ之ヲ受領シ郵便貯金又ハ確實ナル銀行ニ
預入レ保管スルモノトス

第三十六條 第一條第一項前段ノ規定ニ該當スル工員戰死、戰
傷死其ノ他公務ニ因リ死亡シタル場合死歿ノ日以後支給スベ
キ給與ハ左ノ各號ニ依リ之ヲ支給スルコトヲ得死歿前支給ス
ベカリシ給與ニシテ其ノ支給未済ノモノニ付亦同ジ

一 派遣元廳アル者ニ付テハ其ノ派遣元廳ノ、派遣元廳ナキ
者ニ付テハ其ノ所屬廳ノ所管ノ鎮守府又ハ警備府所在地ノ
海軍經理部

二 前號ニ該當セザル者ニ在リテハ海軍省經理局

合同葬儀ヲ行フ場合ニハ前項ノ規定ニ拘ラズ合同葬儀ヲ行フ
地ノ所管ノ鎮守府又ハ警備府所在地ノ海軍經理部(東京都ニ
在リテハ海軍省經理局)ニ於テ之ヲ支給スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ新ニ部外ヨリ採用セラレ外地又ハ戰地ニ派遣
セララル者其ノ到着前退職又ハ死歿シタル場合ニ付之ヲ準用
ス

附則

本達ハ昭和十九年十月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

昭和十七年官房第一七二六號中第一號(イ)、第三號(ロ)及(四)
削除

海軍工員臨時給與規則(昭和十七年達第七十一號)、昭和十七年
官房機密第四號ノ二、同官房第一四四二號、同官房第五〇六八
號及昭和十九年官房經第二六一號ハ之ヲ廢止ス

(別紙添)

<p>昭和十七年官房第一七二六號(海軍機密會計法規類集三二七頁) 官房第一四四三號(同) 三五五頁 官房第五〇六八號(同) 三四五頁 官房機密第四號(二) 三五五頁 (参照) 同 三二頁 海軍工員臨時給與規則(同) 三四頁 昭和十九年官房經第三二號(同)</p>	<p>達第三四八號 大東亞戰爭中捕獲セル和蘭國汽船「フアザント」ヲ帝國艦艇籍ニ編入シ左ノ通命名ス 昭和十九年十月十五日 海軍大臣</p>	<p>達第三四九號 海軍考課表規則中左ノ通改正ス 昭和十九年十月十七日 海軍大臣</p> <p>第九條第一項但書中「機會少ナキ者」ノ下ニ「及定期考課表調製期日後二月以内ニ卒業スル者」ヲ加フ 別表第一號海軍武官考課表調製區分表中</p>	<p>大 兵 機 軍 經 校 校 校 校 校 學 學 學 學 學 學 學 學 學 學 校 校 校 校 校</p>																																																																
<p>砲 水 對 航 通 潛 工 術 雷 海 信 水 機 學 學 學 學 學 學 校 校 校 校 校 校 ヲ「學校」ニ改メ分校長ノ項考課表調製官ノ</p>	<p>欄「分校長」ノ下ニ「海軍兵學校ノ大原分校、岩國分校、舞鶴分校及針尾分校ニ於ケル教頭ヲ含ム以下之ニ同ジ」ヲ加フ 同表病院ノ部ヲ左ノ如ク改ム</p> <table border="1" data-bbox="702 1153 901 1758"> <tr> <td>病 院</td> <td>病 院</td> <td>分 院 長 又 ハ 部 長</td> <td>分 院 長 又 ハ 部 長</td> </tr> <tr> <td>指 定 ノ 士 官</td> <td>指 定 ノ 士 官</td> <td>指 定 ノ 士 官</td> <td>指 定 ノ 士 官</td> </tr> <tr> <td>分 院 長 又 ハ 部 長</td> <td>分 院 長 又 ハ 部 長</td> <td>分 院 長 又 ハ 部 長</td> <td>分 院 長 又 ハ 部 長</td> </tr> <tr> <td>指 定 ノ 士 官</td> <td>指 定 ノ 士 官</td> <td>指 定 ノ 士 官</td> <td>指 定 ノ 士 官</td> </tr> <tr> <td>分 院 長 又 ハ 部 長</td> <td>分 院 長 又 ハ 部 長</td> <td>分 院 長 又 ハ 部 長</td> <td>分 院 長 又 ハ 部 長</td> </tr> <tr> <td>指 定 ノ 士 官</td> <td>指 定 ノ 士 官</td> <td>指 定 ノ 士 官</td> <td>指 定 ノ 士 官</td> </tr> <tr> <td>分 院 長 又 ハ 部 長</td> <td>分 院 長 又 ハ 部 長</td> <td>分 院 長 又 ハ 部 長</td> <td>分 院 長 又 ハ 部 長</td> </tr> <tr> <td>指 定 ノ 士 官</td> <td>指 定 ノ 士 官</td> <td>指 定 ノ 士 官</td> <td>指 定 ノ 士 官</td> </tr> </table>	病 院	病 院	分 院 長 又 ハ 部 長	分 院 長 又 ハ 部 長	指 定 ノ 士 官	指 定 ノ 士 官	指 定 ノ 士 官	指 定 ノ 士 官	分 院 長 又 ハ 部 長	分 院 長 又 ハ 部 長	分 院 長 又 ハ 部 長	分 院 長 又 ハ 部 長	指 定 ノ 士 官	指 定 ノ 士 官	指 定 ノ 士 官	指 定 ノ 士 官	分 院 長 又 ハ 部 長	分 院 長 又 ハ 部 長	分 院 長 又 ハ 部 長	分 院 長 又 ハ 部 長	指 定 ノ 士 官	指 定 ノ 士 官	指 定 ノ 士 官	指 定 ノ 士 官	分 院 長 又 ハ 部 長	分 院 長 又 ハ 部 長	分 院 長 又 ハ 部 長	分 院 長 又 ハ 部 長	指 定 ノ 士 官	指 定 ノ 士 官	指 定 ノ 士 官	指 定 ノ 士 官	<p>同表航空隊ノ部中航空隊司令ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ</p> <table border="1" data-bbox="550 1153 662 1758"> <tr> <td>分 遣 隊 長</td> <td>分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官</td> </tr> <tr> <td>分 遣 隊 長</td> <td>分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官</td> </tr> <tr> <td>分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官</td> <td>分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官</td> </tr> <tr> <td>分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官</td> <td>分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官</td> </tr> <tr> <td>分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官</td> <td>分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官</td> </tr> <tr> <td>分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官</td> <td>分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官</td> </tr> <tr> <td>分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官</td> <td>分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官</td> </tr> <tr> <td>分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官</td> <td>分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官</td> </tr> </table>	分 遣 隊 長	分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官	分 遣 隊 長	分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官	分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官	分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官	分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官	分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官	分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官	分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官	分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官	分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官	分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官	分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官	分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官	分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官	<p>同部中副長ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ</p> <table border="1" data-bbox="406 1153 494 1758"> <tr> <td>分 遣 隊 長</td> <td>分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官</td> </tr> <tr> <td>分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官</td> <td>分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官</td> </tr> <tr> <td>分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官</td> <td>分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官</td> </tr> <tr> <td>分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官</td> <td>分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官</td> </tr> <tr> <td>分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官</td> <td>分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官</td> </tr> <tr> <td>分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官</td> <td>分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官</td> </tr> <tr> <td>分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官</td> <td>分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官</td> </tr> <tr> <td>分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官</td> <td>分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官</td> </tr> </table> <p>同表艦船ノ部中「輸送艦長」及「輸送艦長」ヲ削ル</p>	分 遣 隊 長	分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官	分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官	分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官	分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官	分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官	分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官	分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官	分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官	分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官	分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官	分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官	分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官	分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官	分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官	分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官
病 院	病 院	分 院 長 又 ハ 部 長	分 院 長 又 ハ 部 長																																																																
指 定 ノ 士 官	指 定 ノ 士 官	指 定 ノ 士 官	指 定 ノ 士 官																																																																
分 院 長 又 ハ 部 長	分 院 長 又 ハ 部 長	分 院 長 又 ハ 部 長	分 院 長 又 ハ 部 長																																																																
指 定 ノ 士 官	指 定 ノ 士 官	指 定 ノ 士 官	指 定 ノ 士 官																																																																
分 院 長 又 ハ 部 長	分 院 長 又 ハ 部 長	分 院 長 又 ハ 部 長	分 院 長 又 ハ 部 長																																																																
指 定 ノ 士 官	指 定 ノ 士 官	指 定 ノ 士 官	指 定 ノ 士 官																																																																
分 院 長 又 ハ 部 長	分 院 長 又 ハ 部 長	分 院 長 又 ハ 部 長	分 院 長 又 ハ 部 長																																																																
指 定 ノ 士 官	指 定 ノ 士 官	指 定 ノ 士 官	指 定 ノ 士 官																																																																
分 遣 隊 長	分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官																																																																		
分 遣 隊 長	分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官																																																																		
分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官	分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官																																																																		
分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官	分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官																																																																		
分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官	分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官																																																																		
分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官	分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官																																																																		
分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官	分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官																																																																		
分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官	分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官																																																																		
分 遣 隊 長	分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官																																																																		
分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官	分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官																																																																		
分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官	分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官																																																																		
分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官	分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官																																																																		
分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官	分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官																																																																		
分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官	分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官																																																																		
分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官	分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官																																																																		
分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官	分 遣 隊 所 屬 ノ 士 官、特 務 士 官																																																																		

驅逐隊
潛水隊
海防隊
水雷隊
掃海隊
驅潛隊

同表ノ部中所屬ノ欄「潛水隊」ノ次ニ「砲艦隊」ヲ、「海防隊」ノ次ニ「輸送隊」ヲ、考課表調製官ノ欄「潛水艦長」ノ次ニ「砲艦長」ヲ、「海防艦長」ノ次ニ「輸送艦長」ヲ、記事ノ欄「潛水艦」ノ下ニ「砲艦」ヲ、「海防艦」ノ下ニ「輸送艦」ヲ、「潛水艦長」ノ下ニ「砲艦長」ヲ、「海防艦長」ノ下ニ「輸送艦長」ヲ加フ

同表備考第一號中「佐官又ハ尉官」ヲ「高等武官」ニ改ム
別表第二號海軍文官考課表調製區分表中備考ニ左ノ一號ヲ加フ
四、廳長ノ調製スベキ委任官ノ考課表ハ必要ニ應ジ部下ノ高等官ヲ指定シ之ヲ調製セシムルコトヲ得

○ 通 牒

官房機密第一三四號ノ一六
昭和十九年十月十五日

海軍省 副官

關係各廳長 殿

暗號圖書配給及處分ニ關スル件申進
首題ノ件ニ關シテハ別ニ特令セララルモノヲ除キ別冊暗號圖書現狀表第三八號ニ依リ處理相成度
(別冊ハ所要ノ向ニノミ之ヲ配付ス)

官房空機密第二六四三號
昭和十九年十月十六日

海軍省 副官

關係各廳長 殿

航空兵器主管並ニ類別變更ノ件通知
首題ノ件左記ノ通變更ノコトニ定メラレ候處基準兵器簿又ハ兵器定數簿改正迄ハ現行基準兵器簿又ハ兵器定數簿定數内供給ノコトニ取計相成度
追テ在庫並ニ供給中ノモノノ移管又ハ取扱區分變更ハ帳簿現在高ノ轉記ニ依リ整理シ得ル義ト了知相成度

記

品 目	現 行			正 則	記 事
	飛行長主管第一類	飛行長主管第二類	飛行長主管第一類		
航空燈臺	○			○	主管變更
交 話 器 類					類別變更 以下同シ
落下傘各種					
飛行機用鎗					
裝 帶 各 種					
梱 包 各 種					
落下傘要具類					
敷布 (落下傘 折疊用)	○	○	○		

海軍公報 第四八一九號 昭和十九年十月十八日

一三九三

救命具類

「備考」○印ハ主管又ハ類別變更ヲ示ス

經機密第三號ノ七八

昭和十九年十月十六日

海軍省 經理局長

關係各支出官殿

海軍運輸部ニ於ケル工員旅費支辨科目ニ

關スル件通牒

首題ノ件ニ關シテハ從來雜給及雜費、出張旅費支辨ノ處本年十月一日以降運輸費支辨ト改定相成候

追テ既支出済ノ分ハ其ノ儘トシ科目更正ノ必要無之候

航本機密第一二七三七號

昭和十九年十月十二日

海軍航空本部 總務部長

關係各處長殿

一式陸攻二型電源並列運轉ニ關スル件照會

首題飛行機電源ハ負荷増加ノ爲充電用發電機三型ヲ直結發電機
一一〇型並列運轉ニ改造セラレタルモ過渡的ニ一一〇型ヲ裝備
シ並列運轉工事未済ノモノ有之事故發生セル事例アルニ付左記
ニ依リ至急調査配線ノコトニ取計相成度

記

一 實施要領 直結發電機一一〇型及一一五型取扱説明書第六

項ノ要領ニ依ル

二 並列運轉可能ノ制御盤ハ筐蓋及筐體側面ニ十五耗ノ赤丸アリ

三 配電盤裏ニ於テ左右發電機ノ正側端子ヲ短絡ス(短絡片ノ寸法ハ別圖ノ通)

(別圖添)

○雜 款

○内令提要別冊(定員關係) 追録第四號(八月三十一日現在) 十月四日發送済ニ付受領セバ直ニ加除整理ヲ施行シ至急受領票 送付アリタシ

(海 軍 省 副 官)

○轉勤者赴任先

當隊ヘノ轉勤者ハ「マカツサル」基地ニ向ケ轉勤セシメラレ度 (第九三四海軍航空隊)

(海 軍 省 副 官)

(達第三四七號別表)

備考	戰地	區分	
		給料ノ二十割	同二十三割
増給ハ標準額ノ豫算ヲ以テ勤務ノ優劣ニ應ジ最高最低ノ範圍内ニ於テ支給スルモノトス但シ最高及最低ノ増給ハ勤務廳ニ勤務ノ日又ハ到着ノ日ヨリ該廳退廳ノ日迄ノ期間之ヲ支給ス		標準	最高
		増	最低
		給率	
		第一表ノイ 増給 (戰地ニ在ルモノ、派遣セララルモノ又ハ一時往復スルモノ)	

(昭和十九年十月十八日祕海軍公報)

0156

考 備	定 綴 港 内	第一表ノ口 増 給 (艦船乗員)		
		區 分	標 準	率
		給 料 ノ 六 割	最 高	最 低
北緯四度以南同二六度以北ノ本邦(千島諸島及小笠原諸島ヲ除ク)沿岸	同	七 割	同 七 割	同 五 割
北緯四度以北同二六度以南ノ本邦沿岸(千島諸島、小笠原諸島、南洋群島及新南群島ヲ除ク)及北緯五〇度以南ノ亞細亞蘇聯領沿岸	同	十 割	同 十二 割	同 八 割
千島諸島沿岸、小笠原諸島沿岸、南洋群島沿岸、新南群島沿岸、支那沿岸、北緯五〇度以北ノ亞細亞蘇聯領沿岸及前各項以外ノ地域沿岸	同	十五 割	同 十八 割	同 十二 割

一 本表ノ増給ヲ給スル場合ニハ第二表備考第二號ノ規定ハ當該艦船朝鮮、臺灣又ハ關東州ニ在ル港ヲ定綴港トスル場合ニ限リ之ヲ適用ス

二 増給ハ標準額ノ豫算ヲ以テ勤務ノ優劣ニ應ジ最高最低ノ範圍内ニテ支給スルモノトス但シ最高及最低ノ増給ハ勤務應ニ勤務ノ日又ハ到着ノ日ヨリ該艦退廳ノ日迄ノ期間之ヲ支給ス

(達第三四七號別紙)

(昭和十九年十月十八日秘海軍公報)

考 備		第三表 家具貸與定數	
名稱	等級	工(鑄)長	工(鑄)長以外ノ工(鑄)員
卓子	子	一	一
小卓子	子	一	一
小椅子	子	二	二
疊		二	八
机		一	
回轉椅子	子	一	
茶 筥	筥	一	
衣 類	箱	一	
据 風 呂	呂	一	
移動式炊事用戸棚		一	

本表ノ家具ハ所屬長官ニ於テ必要ト認メタル場合ハ適宜類似ノ物品ヲ流用貸與シ又ハ貸與セザルコトヲ得

定着浴槽ノ設備ナキ浴室ニ
限ル
定着戸棚ノ設備ナキ炊事場
ニ限ル

本個數以内ニ於テ一室ニ限
リ裝備スルモノトス

摘 要

0159

(達第三四七號別紙)

(昭和十九年十月十八日秘海軍公報)

備考	階級識別袖章	第四表 被服物品(定數及制式)				備考	
		品名	區分	定數	制式		
一 艦船乗組ノ工員ニハ本表ノ外艦營傭入ニ準ジ被服物品ヲ貸與スルコトヲ得 二 ※印ハ工作艦乗員○印ハ陸上勤務者ニ限リ貸與スルモノトス 三 本表ノ被服物品ニシテ制式下士官兵ニ同ジモノハ艦營需品トシ其ノ他ハ通常物品トス	四	※常服	一	一	下士官略衣袴ニ同ジ但シ上衣鈕釦ハ外套ト同一トス		
		※カ	一	一	下士官當該被服物品ニ同ジ		
		略帽	一	一			
		※外	一	一			
		雨衣	一	一			
		略靴	一	一			
		※雨	一	一			
		作業服	一	一			
		作業手袋	一	一			
		○護謨底紺足袋	一	一			
○脚絆	一	一					
※帽	一	一	兵器手帽前章ニ同ジ				
			常服、外套、雨衣及作業服右手上膊部周圍ニ左ノ識別線ヲ縫着スルモノトス				
			階級事項	幅及線數	地	質	縫着法
			職手	同	一本	常服、雨衣及外套用赤布	各線間三耗ノ間隔ヲ保タシム
			工手	幅八	耗三本	常服、雨衣及外套用赤布	
			工長	幅一六	耗二本	常服、雨衣及外套用赤布	
			一、二等工員	同	一本	作業服用黒布	

0160

(達第三四七號別紙)

(昭和十九年十月十八日秘海軍公報)

第六表 戦時特別給與品

種別	品名	給與料	
		數	料
日用品	手拭、ハンカチーフ、齒磨揚子、齒磨粉、落シ紙、 禱、石鹼、鉛筆、狀袋、便箋	適	宜
臨時飲食物	酒、煙草、甘味品	適	宜
備考	備	<p>本表ノ物品ノ給與ハ左ノ各號ニ依ルモノトス</p> <p>一 本表ノ物品ハ日用品及臨時飲食物ニ分チ當月ノ豫算ノ範圍内ニ於テ食卓長又ハ班長等ニ配給スルモノトス 當月ノ豫算ハ其ノ月一日在籍員(給與資格者)ニ對シ日用品ニ在リテハ五十錢、臨時飲食物ニ在リテハ二回ヲ 乘ジタル金額トス但シ給與開始ノ月ハ開始ノ日ノ現在員ニ付日割計算ニ依リ算出スルモノトス</p> <p>二 支給日ニ於ケル現在員當月ノ豫算人員ニ比シ二割以上ノ増減アル場合ハ支給日ノ現在員ニ依リ前號ノ豫算ヲ 更定スルモノトス</p> <p>三 入院患者又ハ派遣員ニ付當該廳長必要ト認メタル場合ハ當該病院又ハ派遣ヲ受ケタル廳ニ於テ前二號ニ準ジ 之ヲ給與スルコトヲ得</p> <p>四 前項ノ給與ヲ爲シタルトキハ給與廳ヨリ其ノ旨本人ノ所屬廳ニ通報スルモノトス</p> <p>五 本表ノ物品ハ適宜類似ノ他ノ物品ニ換ヘ給與スルコトヲ得</p> <p>六 當月ノ豫算ハ物品ノ入手不能等特別ノ理由アル場合ノ外翌月ニ繰越スコトヲ得ザルモノトス</p>	

0161

(達第三四七號別表)

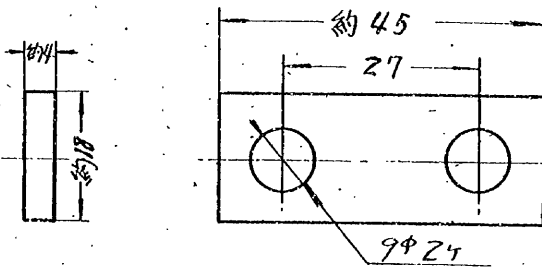
(昭和十九年十月十八日祕海軍公報)

第五表 家族招致者官給糧食及薪炭		品目	量	額	記	事
精米	大人	一人日量	四〇〇瓦	二五〇瓦	所屬長官必要ト認ムルトキハ換給量額ヲ定メ代用食品ヲ給スルコトヲ得	
	小人					
醬味	油	一人日量	一五瓦	一〇瓦		
砂糖	鹽					
石炭	炭	一家族月量				

備考
 一 本表ノ糧食及薪炭ハ家族工員ノ在勤廳所在地ニ到着ノ日ヨリ家族工員ノ勤務廳所在地ニ在ラザルニ至リタル日迄之ヲ支給ス
 二 旅費ノ支給ヲ受クル期間其ノ本人ニ對スル分ノ糧食ハ之ヲ支給セズ
 三 本表ニ於テ小人数ト稱スルハ數ヘ年十歳以下ノ者ヲ謂フ

(航本機番第一二七三七號別圖)

正側端子
短絡片



表面 ハング揚げ
材料 銅

(昭和十九年十月十八日海軍公報)

0163

秘

0164

海軍公報

第四八三〇號

昭和十九年十月十九日(木)
海軍大臣官房

○令 達

達第三五一號

海軍武官任用進級取扱規則中左ノ通改正ス

昭和十九年十月十八日

海軍大臣

別表第一號海軍武官候補名簿及拔擢名簿調製區分表中「機關學校」ヲ削ル

同表領守府ノ部中「領守府機關長」ヲ「參謀副長」ニ、

病院 長	病院 長	病院 部 長	病院 部 長	病院 部 長
分院 長	分院 長	分院 長	分院 長	分院 長
航空隊司令 長	航空隊司令 長	航空隊司令 長	航空隊司令 長	航空隊司令 長
航空隊分遣隊 長	航空隊分遣隊 長	航空隊分遣隊 長	航空隊分遣隊 長	航空隊分遣隊 長
艦裝具 長	艦裝具 長	艦裝具 長	艦裝具 長	艦裝具 長

秘海軍公報 第四八三〇號 昭和十九年十月十九日

艦裝具 長	艦裝具 長 タル首席高等武官	驅掃水海潛驅 潛海雷防水逐 隊隊隊隊隊隊	驅掃水海潛驅 潛海雷防水逐 隊隊隊隊隊隊
		司令	司令
部 長	防備隊司令	獨立 驅掃水海潛驅 潛海雷防水逐 艇艇艇艦艦艦 長長長長長長	獨立 驅掃水海潛驅 潛海雷防水逐 艇艇艇艦艦艦 長長長長長長
部 長	防備隊司令	獨立 驅掃水海潛驅 潛海雷防水逐 艇艇艇艦艦艦 長長長長長長	獨立 驅掃水海潛驅 潛海雷防水逐 艇艇艇艦艦艦 長長長長長長
部 長	防備隊司令	獨立 驅掃水海潛驅 潛海雷防水逐 艇艇艇艦艦艦 長長長長長長	獨立 驅掃水海潛驅 潛海雷防水逐 艇艇艇艦艦艦 長長長長長長
部 長	防備隊司令	獨立 驅掃水海潛驅 潛海雷防水逐 艇艇艇艦艦艦 長長長長長長	獨立 驅掃水海潛驅 潛海雷防水逐 艇艇艇艦艦艦 長長長長長長

一三九五

委託工事用兵器處理ニ關スル件申進
 當分ノ開訓令、通牒等ニ依ル工事ヲ内地相五開ニ於テ受令工作
 廳ヨリ他ノ部内工作廳ニ委託シタルトキハ之方所要兵器ノ供給
 ニ關シ左ノ通定メラレ候

記

- 一 委託元工作廳ハ訓令、通牒寫又ハ兵器供給資料ヲ受託先海軍需部ニ送付シ其ノ旨受令先海軍需部ニ通報ス
 - 二 受託先海軍需部ハ前號ノ通知ニ依リ兵器ヲ供給スルモノトス但シ特用兵器ヲ流用セントスルトキハ豫メ主務部ノ了解ヲ得ルヲ要ス
 - 三 前號ニ關聯シ供給兵器ノ補填ヲ要スルトキハ關係海軍需部間ニ於テ連絡ノ上本申進ニ依リ保轉受ヲ爲スモノトス
- 追テ左記ハ自然消滅トス
- 一九、七、一九 艦本機密兵電第八一一號
 - 同 八、七 艦本機密兵無線第四五一號

○雜 款

○官廳移轉先
 内閣恩給局ハ十月一日小田原市幸町一丁目九百番地（神奈川県立小田原高等女學校内）ニ移轉セリ

○開隊
 第七六三海軍航空隊ハ十月十日鹿兒島縣出水航空基地ニ開隊セ

リ
 （順路）鹿兒島本線出水驛下車（○、四軒）

○派遣隊設置

第七六三海軍航空隊國分派遣隊ヲ十月十日鹿兒島縣國分ニ設置セリ

○轉勤者赴任先

第七六三海軍航空隊（攻撃第四〇五飛行隊、攻撃第四〇六飛行隊）ヘノ轉勤者ハ鹿兒島縣出水航空基地ニ向ケ赴任センメラレ度
 （第七六三海軍航空隊）

○事務所撤去

第五十號海防艦艇裝具事務所ハ十月十三日之ヲ撤去セリ

○本日軍械秘海軍公報第二五號（甲配付）發行セリ

○本日海軍公報發行セズ

海軍公報 號外

昭和十九年十月十九日(木)
海軍大臣官房

○ 叙 位

○昭和十九年六月十五日

海軍技術少尉

赤松 精治

鈴木 昌訓

佐藤幸一郎

井上 重二

西 壽夫

中村 重庸

麻生 庄吾

鳥越 操

小山 柳三

田中 堯

地京 正信

山崎 太

岡村清左衛門

中山 富茂

叙正八位

○昭和十九年八月二十九日

叙正七位

海軍大尉

木幡 正雄

叙正七位

(通各)

海軍中尉

小山 政巳

叙從七位

同

片山 久司

叙正八位

海軍少尉

近藤 賢一

○昭和十九年九月五日

叙從六位

海軍少佐

古田 島 浩

叙正七位

海軍大尉

小山内正義

(通各)

叙從七位

海軍中尉

村上 達

同

同

福永 茂俊

同

同

村上 良一

○昭和十九年九月六日

叙從七位

海軍少佐

時枝 重良

(通各)

叙從六位

同

樋口 孝

同

同

黒木 博司

叙從七位

○昭和十九年九月八日

叙正八位

海軍少尉

福山 稔

(通各)

同

武中 豊吉

○昭和十九年九月九日

叙從六位

海軍軍醫少佐

若槻 俊雄

叙從七位

海軍中尉

福田 千尋

○昭和十九年九月十一日

叙正七位

海軍大尉

上野 博之

○昭和十九年九月十二日

叙正七位

海軍大佐

井上 武治

叙從五位

叙正五位(特旨ヲ以テ位二級追陞セラル)

海軍中尉

栗山 虎政

叙從七位

○昭和十九年九月十三日

叙從七位

海軍中尉

飯塚 親雄

(通各)

同

勝倉喜八郎

○昭和十九年九月十四日

叙從七位

海軍中尉

石浦 亘

(通各)

同

櫻田 尙

海軍公報 號外

○昭和十九年九月十五日

海軍司政長官

三橋孝一郎

海軍大佐

村尾 二郎

海軍參與官

中野 敏雄

海軍中佐

高城 爲行

海軍大尉

宇野 榮治

(通各)

海軍大尉

佐々木 梯

海軍大尉

境野 藤作

海軍大尉

岡田 龍一

海軍大尉

宮崎 直藏

海軍衛生大尉

多胡 一務

海軍中尉

追立 長吉

海軍中尉

藤野 正義

海軍中尉

菊地周治郎

海軍中尉

佐藤重四郎

海軍中尉

天野 武

海軍中尉

岡部 五郎

海軍中尉

笹尾 駒吉

海軍中尉

倉田 宗一

(通各)

海軍中尉

池本 惣一

海軍中尉

片桐 繁一

海軍中尉

山本 米市

海軍中尉

和川 万記

海軍中尉

長沼 誓馬

海軍中尉

宮田 熊彦

海軍中尉

中村甚三郎

海軍中尉

茅根 道

海軍中尉

中根梅次郎

海軍中尉

山田幸四郎

海軍中尉

幡丸留三郎

海軍中尉

塩川 新吉

海軍中尉

加賀谷源藏

海軍中尉

山岸 貞吉

海軍中尉

上野 幸一

(通各)

海軍中尉

中村 正孝

海軍中尉

後藤 允

海軍中尉

根岸 悦郎

海軍中尉

影山 久亨

海軍中尉

小池 龍夫

海軍中尉

宇佐見末男

海軍中尉

同

海軍中尉

同

海軍中尉

同

海軍中尉

同

海軍中尉

同

海軍中尉

同

海軍中尉

同

海軍中尉

同

(通各)

海軍中尉

同

海軍中尉

同

海軍中尉

同

海軍中尉

同

海軍中尉

同

海軍中尉

同

海軍中尉

同

海軍中尉

同

海軍中尉

同

海軍中尉

同

海軍中尉

同

海軍中尉

同

海軍中尉

同

海軍中尉

同

海軍中尉

同

海軍中尉

同

(通各)

海軍中尉

同

海軍中尉

同

海軍中尉

同

海軍中尉

同

海軍中尉

同

海軍中尉

同

海軍中尉

同

海軍中尉

同

海軍中尉

同

海軍中尉

同

海軍中尉

同

海軍中尉

同

海軍中尉

同

海軍中尉

同

海軍中尉

同

海軍中尉

同

(通各)

海軍中尉

同

海軍中尉

同

海軍中尉

同

海軍中尉

同

海軍中尉

同

海軍中尉

同

海軍中尉

同

海軍中尉

同

海軍中尉

同

海軍中尉

同

海軍中尉

同

海軍中尉

同

海軍中尉

同

海軍中尉

同

海軍中尉

同

海軍中尉

同

秘

0172

海軍公報 第四八三一號

昭和十九年十月二十日(金) 海軍大臣官房

○令 達

内令第一二七九號

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定メラル

第三十五號海防艦

内令提
要登載

横須賀鎮守府在籍

第三十五號海防艦

右警備海防艦ト定メラル

昭和十九年十月十一日

海軍大臣

内令第一一八〇號

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定メラル

第五十號海防艦

横須賀鎮守府在籍

第五十號海防艦

内令提
要登載

右警備海防艦ト定メラル

昭和十九年十月十三日

海軍大臣

内令第一一八一號

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定メラル

驅逐艦

内令提
要登載

右本籍ヲ吳鎮守府ト定メラル

第六十一號輸送艦

第四百四十號輸送艦

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラル

昭和十九年十月十四日

海軍大臣

内令第一一八四號

昭和十八年内令第一一九四號高等商船學校等海軍武官配屬表ノ
件中左ノ通改正ス

昭和十九年十月十五日

海軍

内令提
要登載

別表中

吳鎮守府

吳海兵團

神戸高等商船學校

神戸高等商船學校

大阪警備府 神戸高等商船學校

第三短期高等
海員養成所」ヲ「東京高等商船學校(専科)」ニ、

秘海軍公報 第四八三一號 昭和十九年十月二十日

三九九

内令第一一八七號
昭和十八年内令第一二號航空基地管理ニ關スル件申左ノ通改正ス

昭和十九年十月十五日

海軍

内令提
要登載

北海道、千島及樺太所在ノ航空基地	第十二航空艦隊
樺山航空基地	大湊海軍航空隊
三澤航空基地	第十二航空艦隊
北海道、千島及樺太所在ノ航空基地	第十二航空艦隊
樺山航空基地	第十二航空艦隊
三澤航空基地	第十二航空艦隊
香取航空基地	關東海軍航空隊
茂原航空基地	關東海軍航空隊
木更津航空基地	關東海軍航空隊
香取航空基地	第三航空艦隊
茂原航空基地	第三航空艦隊
木更津航空基地	第三航空艦隊
綾津航空基地	關東海軍航空隊

ヲ

ニ

ヲ

ニ

ヲ

藤枝航空基地	第三航空艦隊
八丈島航空基地	關東海軍航空隊
八丈島航空基地	第三航空艦隊
鹿兒島航空基地	九州海軍航空隊
鹿屋航空基地	九州海軍航空隊
笠ノ原航空基地	九州海軍航空隊
種子島航空基地	九州海軍航空隊
鹿兒島航空基地	九州海軍航空隊
鹿屋航空基地	九州海軍航空隊
笠ノ原航空基地	九州海軍航空隊
種子島航空基地	九州海軍航空隊
種子島航空基地	第二航空艦隊

ヲ

ニ

ヲ

ニ

ヲ

ニ

ヲ

ニ

(内令提要卷一、三〇ノ四一頁参照)

内令第一一八八號

昭和十八年内令第一二三號申左ノ通改正ス

昭和十九年十月十五日

海軍大臣

第十一海軍航空廠築城補給工場

福岡縣築上郡築城

ヲ削リ

内令提
要登載

秘海軍公報 第四八三二號 昭和十九年十月二十日

一四〇二

第七二海軍航空廠宇佐補給工場 大分縣宇佐郡柳浦村 ノ次ニ
第十二海軍航空廠築城補給工場 福岡縣築上郡築城 ヲ加フ

(参照) 内令提要卷一、三〇ノ二四ノ二航空兵器供給所ノ名稱及所在地ノ件ナリ

○通牒

官房備機密第三一八號ノ二二

昭和十九年十月十九日

海軍省

内令提
秘登載

各廳長殿

郵便物ニ關スル件通牒

昭和十九年官房備機密第三一八號通牒首題ノ件別冊郵便物ニ關スル例規中左記ノ通改メラレ候

記

附録所在地區別符表(其ノ二)中ニ

タル ラ ツ タ テ 貳 五

ヲ加フ

附録部隊區別符表(其ノ一)中ニ

第五〇六	船舶防空隊	ウ四八參
第二二	震洋隊	ウ四八四
第二〇三	防空隊	ウ四八五

第一一八三	防空隊	ウ四八六
第一一八四	防空隊	ウ四八七
第一一八五	防空隊	ウ四八八
第一一八六	防空隊	ウ四八九
第一一八七	防空隊	ウ四九〇
第一一八八	防空隊	ウ四九壹

ヲ加フ

(其ノ二)中ニ

第三十一	戰隊司令部	テ七四
第八	震洋隊	テ七五
第九	震洋隊	テ七六

ヲ加フ

(其ノ三)中ニ

宮古島警備隊	イ壹四七	
石垣島警備隊	イ壹四八	
第二十二	輸送隊	イ壹四九
第一一五	船舶防空隊	イ壹五〇

ヲ加フ

第二十五海軍 軍用郵便所	第二十三特別 根據地隊	吳鎮守府	第二 南遣艦隊	第一派出所 メナド	監督官兼務 一人
第二十六海軍 軍用郵便所	第二南遣艦隊司 令部所在地又ハ 第二十一 特別根據地隊	右 同	第一派出所 ジャカルタ	所長 一人	兼務 一人
		右 同	第二派出所 バリ島	所長 一人	兼務 一人
			第三派出所 ガワツイ プン	所長 一人	兼務 一人
			第四派出所 エン デ	所長 一人	兼務 一人
			第五派出所 ク ー パ ン	所長 一人	兼務 一人
				所員 十四人	兼務 一人
				所員 十人	兼務 一人

ニ改ム

兵備四機密第九八一號

和昭十九年十月十八日

海軍省兵備局長

各鎮守府
各警備府 參謀長殿

住宅營團等建築家屋一部借用ニ關スル件通牒

昭和十七年兵備機密第二二五號通牒添付別紙首題仰裁中左記ノ
通改正セラレ候條可然取計相成度

記

第一ノ(二) 家屋使用料

家屋使用料ハ鎮守府(警備府)司令長官ノ定ムル所ニ依リ之
ヲ家屋所有者ニ支拂ハシム

第二統 轄

鎮守府(警備府)司令長官ハ部下作業廳ニ對スル住宅戸數ノ
配分、居住者ノ順位及家屋使用料ヲ定ムルモノトス。
前項ノ家屋使用料ハ疊一枚當平均九〇錢トシ各家屋ノ所在
地、環境、建前等ヲ考慮シ適宜定ムルコトヲ得

海人三機密第二號ノ八一

昭和十九年十月十九日

海軍省人事局長

關係各廳長殿

特修兵銓衡試驗ノ施行期日ニ關スル件申進

特修兵養成ニ關スル特例第十七條ノ規定ニ依リ本年十二月一日ニ於テ施行スベキ銓衡試驗ハ昭和二十年一月十日ニ之ヲ施行スルコトニ定メラレ候

追テ昭和十八年官房教機密第一三一號(大東亞戰爭中特修兵ニ非ザル下士官及兵ヲ普通科特修兵ト爲スコトヲ得ルノ件)ノ規定ニ依リ各學校長等ニ於テ既ニ作製配付済ノ試驗問題ハ右銓衡試驗ニ之ヲ使用シ差支ナキニ付了知相成度

(九月二十九日秘海軍公報参照)

經豫機密第三號ノ八〇

昭和十九年十月十九日

海軍省經理局長

關係各支出官、資金前渡官吏殿

日本銀行代理店設置ノ件通知

國庫事務ヲ取扱フ日本銀行代理店ヲ左記ニ設置シ夫々之ガ事務ヲ取扱フコトト相成候

記

朝鮮 濟州島

〔濟州〕

臺灣高雄州恒春郡

〔恒春〕

中華民國湖南省

〔衡陽〕

○雜款

○開隊

第七二一海軍航空隊ハ十月一日開隊百里原海軍航空隊内ニ於テ事務ヲ開始セリ

○基地移轉

舞鶴潛水艦基地隊ハ十月十日舞鶴市長濱埋立地(舊第三次藥廠願舍)ニ移轉事務ヲ開始セリ

(電話番號 第三次藥廠(長濱) 二七〇番)

○部隊移轉

當隊十月一日本隊ヲ橫須賀市久里濱八幡(電話久里濱交換四六四六番)ニ移轉セリ

追テ當隊魚雷艇ノ一部ハ橫須賀潛水艦基地隊内(舊本隊)ニ殘留ス

(橫須賀、防備隊)

○事務開始

第四百四十二號輸送艦艇裝具事務所ヲ十月十日佐世保海軍工廠内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

(電話工廠 一、三五六)

○事務所撤去

第三十五號海防艦艇裝員事務所ハ十月十一日之ヲ撤去セリ

第四百十號輸送艦艇裝員事務所ハ十月十四日之ヲ撤去セリ

第六百六十一號輸送艦艇裝員事務所ハ十月十四日之ヲ撤去セリ

○殘務整理

第三〇一海軍航空隊殘務整理ハ横須賀鎮守府艦船部隊殘務整理班ニ於テ之ヲ行フ

○轉勤者赴任先

自今當隊ヘノ轉勤者ハ千葉縣木更津市木更津航空基地ニ向ケ赴任セシメラレ度

(第七五二海軍航空隊)
(攻撃第五〇一飛行隊)
(攻撃第七〇二飛行隊)

當隊ヘノ轉勤者ハ左ニ依リ赴任セシメラレ度

關釜連絡線釜山乘換京釜本線龜浦驛下車(徒歩約四軒)

(大村海軍航空隊濟州島分遣隊)

當隊(戰闘第三〇四、同第八一二飛行隊共)ヘノ赴任轉勤者ハ香取航空基地、戰闘第三〇三飛行隊ヘノ赴任轉勤者ハ鹿兒島航空基地ヘ向ケ旅行セシメラレ度

迫テ旅費ハ同基地迄前金拂(家族移轉料支給上ノ勤務地ハ横須賀市)ノコトニ取計ハレ度

尙當隊宛書類ニシテ戰闘第三〇三飛行隊ニ關係アルモノハ同隊宛寫直送相成度

(第二〇三海軍航空隊)

○本日軍極秘海軍公報第二六號(乙配付)發行セリ
配付先

各司令部、各航空隊、各航空廠、同支廠、航空技術廠、同支廠

秘

海軍公報 第四八三二號

昭和十九年十月二十一日(土)
海軍大臣官房

○令 達

達第三五二號
昭和十九年度ニ於テ建造ニ着手ノ魚雷艇百二十六隻ニ左ノ通命名ス

昭和十九年十月二十日
海軍大臣

横須賀海軍工廠ニ於テ建造

自第三十三號軍艇(十四隻)
至第四十六號軍艇

吳海軍工廠ニ於テ建造

自第二百二十六號軍艇(二十隻)
至第二百四十五號軍艇

佐世保海軍工廠ニ於テ建造

自第八百四十九號魚雷艇(二十二隻)
至第八百七十號魚雷艇

自第七十七號軍艇(十六隻)
至第一百二十二號軍艇

舞鶴海軍工廠ニ於テ建造

自第五百三十八號魚雷艇(十六隻)
至第五百五十三號魚雷艇

三菱重工業株式會社長崎造船所ニ於テ建造

海軍公報 第四八三二號 昭和十九年十月二十一日

自第八百七十一號魚雷艇(三十隻)
至第九百號魚雷艇

自第一千零一號魚雷艇(八隻)
至第一千零八號魚雷艇

内令第一一八九號

右本籍ヲ大湊警備府ト定ム

昭和十九年十月十五日

海軍大臣

務令提
要登載

内令第一一九〇號

昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正

昭和十九年十月十五日

海軍大臣

務令提
要登載

大湊防備隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第九十三號(大)」ノ次ニ
「第九十六號(大)」ヲ加フ

(内令提要卷三、四八ノ二〇頁参照)

内令第一一九一號

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定メラル

第四十一號海軍公報
務令提
要登載

一四〇七

0180

横須賀鎮守府在籍

第四十一號海防艦

右警備海防艦卜定メラル

昭和十九年十月十六日

海軍大臣

官房教第八五號

官房教第七三號ニヨル第八次講習派遣標準ニ左ノ如ク追加ス

昭和十九年十月十九日

海軍大臣

記

派遣元	准士官以上	下士官
横須賀海軍通信學校	一	二
防府海軍通信學校	一	二

(参照) 官房教第七三號ハ第七次第八次體育講習ニ關スル件ナリ (昭和十九年九月十七日海軍公報)

官房需第二五三號

當分ノ間見習尉官、學生、生徒ニ採用セラレタル者、現役兵、應召員等ニシテ入團(入校又ハ入隊)ノ際身體檢査不合格其ノ他ニ依リ歸郷ヲ命ゼラレタルモノニ對シ所轄長必要ト認ムルトキハ一人ニ付三食以內適宜ノ糧食ヲ給與シ之ヲ携行セシムルトヲ得

前項ノ規定ニ依リ糧食ヲ給與シタルトキハ一食ニ付三十錢ヲ辨償セシムルモノトス

昭和十九年十月十九日

海軍大臣

官房設第八四號

昭和十三年官房第一六一八號各廳勤務ノ海軍武官中官舎ニ居住スベキ者ノ件中左ノ通改正ス

昭和十九年十月十九日

海軍大臣

第十一號中「第十一海軍航空廠大分支廠長、廠員(庶務ヲ掌ル)」「第十二海軍航空廠長、廠員(庶務ヲ掌ル)」「第二十一海軍航空廠鹿屋支廠長、廠員(庶務ヲ掌ル)」「第二十二海軍航空廠長、廠員(庶務ヲ掌ル)」「ニ改ム

(参照) 會計法規集四卷六二二頁

○通牒

官房備機密第三一八號ノ一三

昭和十九年十月二十日

海軍省

各廳長 殿
郵便物ニ關スル件通牒

内令提
機密載

0181

昭和十九年官房備機密第三二八號通牒首題ノ件別冊郵便物ニ關スル例規中左記ノ通改メラレ候

記

附録所在地區別符表(其ノ二)中ニ

サン	フ	エル	ナン	ド	テ	登	登
ボ	ン	ガ	オ	テ	四	〇	
オ	ル	モ	ツ	ク	テ	五	登

ヲ加フ

附録部隊區別符表(其ノ一)中ニ

第一	〇	二	三	航	空	隊	ウ	四	九	貳
北	東	航	空	隊	ウ	四	九	參		
第	四	震	洋	隊	ウ	四	九	四		
第	五	震	洋	隊	ウ	四	九	五		
第	十	六	震	洋	隊	ウ	四	九	六	
第	七	二	一	航	空	隊	ウ	四	九	七
第	二	百	八	設	營	隊	ウ	四	九	八

ヲ加フ

(其ノ二)中ニ

海軍公報 第四八三三號 昭和十九年十月二十一日

第	十	二	震	洋	隊	テ	七	七		
第	二	百	十	九	設	營	隊	テ	七	八

ヲ加フ

(其ノ三)中ニ

馬	來	航	空	隊	イ	登	五	登
東	印	航	空	隊	イ	登	五	貳

ヲ加フ

別表海軍軍用郵便所及同派出所一覽表中

第四十二海軍軍用郵便所ノ項

第一派出所 ナンカウリ

ヲ加フ

海功調機密第二〇號ノ五

昭和十九年十月二十日

海軍功績調機密登載

關係各廳長殿

國民勤勞報國隊ノ功績其中ニ關スル件通牒

國民勤勞報國隊(學徒勤勞報國隊等ヲ含ム)等ニシテ軍屬ニ非ザルモノガ海軍ノ勤勞ニ服シ又ハ海軍ノ業務ヲ幫助シタル場合之ガ功績其中ハ部外者トシテ取扱フモノナルモ功績書類ノ調製ハ特ニ左記ニ依リ處理相成度

一四〇九

0182

<p>記</p> <p>一 團體トシテ勤勞セシ場合 左ノ區分ニ依リ別紙様式ノ名簿ヲ調製シ團體ニ對スル功績明細書及履歷書ヲ添附ス</p> <p>(イ) 團體トシテ纏リテ一定期間終始セシ場合 様式第一 (ロ) 團體トシテ參加スルモ勤勞中隊員方適時交代スルガ如キ場合 様式第二</p> <p>二 個人トシテ勤勞セシ場合 (前號(ロ)ノ參加者ヲモ含ム) 左ノ事項該當者ニ就テハ部外者ノ功績調査要領ニ依リ處理ス (イ) 概ネ三ヶ月以上ノ勤勞日數アル者 (ロ) 特ニ功績大ニシテ個人行賞至當ト認ムル者</p> <p>追テ</p> <p>一 本件該當者ノ功績書類ハ當分各廳ニ於テ保管ス 二 團體參加者ノ功績調査票ハ之ヲ要セズ 三 戦歿、公務死歿者ニ對シテハ其ノ都度個人ニ對スル功績其中ヲ爲ス (別紙添)</p>	<p>二 所在地 宮城縣鹽竈市鹽竈港運送株式會社内 三 電話番號 鹽竈局 七一〇番(代表) (横須賀海軍運輸部)</p> <p>○移轉 母島警備隊ハ十月十六日横須賀潜水艦基地隊ヨリ「ツ貳五」ニ移轉事務ヲ開始セリ</p> <p>○事務開始 波號第百三潜水艦艇裝員事務所ヲ十月十日神戸市川崎造船所内ニ設置シ事務ヲ開始セリ</p> <p>○電話架設 吳鎮守府 二七〇九番(當直室) 同 二九八二番(幕僚室) (第一特別基地隊)</p> <p>○本日海軍公報發行セズ</p>
<p>○運輸部出張所設置 當部出張所ヲ左記ノ通設置シ八月五日ヨリ事務ヲ開始セリ</p> <p>記</p> <p>一名 稱 横須賀海軍運輸部鹽竈出張所</p>	<p>○運輸部出張所設置 當部出張所ヲ左記ノ通設置シ八月五日ヨリ事務ヲ開始セリ</p>

（海功調機密第二〇號ノ五別紙）
様式第一

〇〇勤勞報國隊參加員名簿

（昭和十九年十月二十一日祕海軍公報）

廳 名

※	※	參加期間	本籍地又ハ現住所	地位	生氏 年 月 日 名	記 事

（備考）※印ノ欄ハ記入セザルコト

0184

(海功調機密第二〇號ノ五別紙)

様式第二

勤勞報國隊名簿

(昭和十九年十月二十一日秘海軍公報)

廳名

※	※	功績順位	延參員數加	團體名	記事

(備考) ※印ノ欄へ記入セザルコト

0185

秘

0186

海軍公報 號外

○勅語

官房軍第二二〇四號

本日南方軍總司令官、聯合艦隊司令長官及第十方面軍司令官ニ
對シ左ノ勅語ヲ賜ハリタリ

昭和十九年十月二十一日

海軍大臣 臣

勅語

朕カ陸海軍部隊ハ緊密ナル協同ノ下敵艦隊ヲ邀撃シ奮戰大ニ
之ヲ撃破セリ

朕深ク之ヲ嘉尙ス

惟フニ戰局ハ日ニ急迫ヲ加フ汝等愈協心戮力以テ 朕カ信倚

ニ副ハムコトヲ期セヨ

昭和十九年十月二十一日(土)
海軍大臣官房

秘海軍公報 號外

0187



海軍公報 號外

○判決

判 決

(昭和十九年四月二十一日海軍省臨時軍法會議宣告)

昭和十九年十月二十一日(土)
海軍大臣官房

秘海軍公報 號外

0188

秘
海
軍
公
報
號
外

二

0189

秘海軍公報
號外

三

0190

秘海軍公報
號外

四

0191

秘
海
軍
公
報
號
外

五

0192

秘
海
軍
公
報
號
外

六

0193

秘海軍公報 號外

七

0194

秘
海
軍
公
報
號
外

八

秘

海軍公報 第四八三三號

昭和十九年十月二十四日(火)
海軍大臣官房

○令 達

官房軍機密第一三四〇號
陸海軍(除航空)技術委員會規約中左ノ通改正
昭和十九年十月十九日

内令提
登載

海軍大臣
陸軍大臣

別表中第六分科ノ部「海軍艦政本部部員 五」ヲ「海軍艦政本部部員 三」ニ改ム

(内令提要卷一、三〇ノ五四頁参照)

○通 牒

軍務一機密第九九九號
昭和十九年十月二十日

海軍省軍務局長

關係各廳長殿

新設航空隊名ノ新聞紙等掲載ニ關スル件申進

首題ノ件ニ關シ昭和十七年七月軍務一機密第五〇七號申進追書ニ依ル部外發表差支ナキ航空隊左記ノ通追加セラレ候條了知相成度

記

小島松 滋賀海軍航空隊 四宮分遣隊
小島松 滋賀海軍航空隊 寶塚分遣隊
清水 滋賀海軍航空隊 高野山分遣隊
三澤 滋賀海軍航空隊 宇和島分遣隊
松山海軍航空隊

軍務一機密第一〇〇六號

昭和十九年十月二十一日

海軍省軍務局長
海軍省人事局長

各海軍航空隊司令殿
各搭載艦艦長殿

内令提
登載

士官搭乗員中偵察術ヲ專修セル者ノ航空機操縦禁止ニ關スル件申進

士官搭乗員中偵察術ヲ專修セル者ハ昭和十九年遠第三四三號ヲ以テ飛行機ノ操縦ヲ差止メラレ居候條之ヲ嚴守方ニ關シ萬遺憾ナキヲ期セラレ度

秘海軍公報 第四八三三號 昭和十九年十月二十四日

一四一一

0195

但シ海軍航空隊職員服務規程第六條第二號ニ該當スル者ハ此ノ限リニ非ズ候

○ 雜 款

○司令驅逐艦變更

第四十一驅逐隊司令ハ十月十三日司令驅逐艦ヲ霜月ニ變更セリ

○廳舎設置

鹿兒島在勤海軍武官府ハ住吉町海運支局階上ニ於テ假執務中ノ所十月十五日左記ニ廳舎ヲ設置セリ

記

鹿兒島市金生町山形屋階上 電話 二〇六番 三八六番

○事務開始

第三〇〇一設營隊
第三〇〇二設營隊
第三〇〇三設營隊
ハ十月十五日横須賀海軍施設部内ニ於テ事務ヲ開始セリ

○事務所撤去

海防艦久米巖裝員事務所ハ九月二十五日之ヲ撤去セリ
追テ本艦ヘノ轉勤者ハ佐伯ニ向ケ赴任セシメラレ度
第二百七號海防艦裝員事務所ハ十月十五日之ヲ撤去セリ
第四十一號海防艦裝員事務所ハ十月十六日之ヲ撤去セリ

海軍公報

第四八三四號

昭和十九年十月二十五日(水)
海軍大臣官房

○令 達

官房備機密第五九五號
海軍勤勞顯功章令施行規則第十條ニ依ル昭和十九年度海軍關係
事業ニ從事セルモノノ表彰員數等左ノ通定ム

昭和十九年十月二十四日

海軍大臣

一 中央表彰候補及地方表彰員數

所 屬 分 別	海軍ノ事業ニ 使用セララル ノ人員ニ シテ海軍大臣 ノ指定シタル モノ		同上團體		工場事業場管 理令ニ依ル海 軍大臣ノ管理 ニ係ル工場事 業場ノ經營者 ヲ含ム若ハ 其ノ團體又ハ 勞務者トノ間 ニ於テ勤勞者 トノ間ニ於テ 勤勞者トノ間 ニ於テ勤勞者 トノ間	
	地方表 彰員數	中央表 彰候補員數	地方表 彰員數	中央表 彰候補員數	地方表 彰員數	中央表 彰候補員數
横須賀鎮守府	一五七	七	一一	三		
吳鎮守府	二〇	五	七	二		
佐世保鎮守府	七二	三	五	二		
舞鶴鎮守府	二七	一	四	二		

秘海軍公報 第四八三四號 昭和十九年十月二十五日

計	水 路 部 (氣象部 ヲ含ム)	施設本部	航空本部	艦政本部 (電波本部 ヲ含ム)	軍需局	大阪警備府	高雄警備府	鎮海警備府	大湊警備府
四二〇	二	一	一	六		五	一五	二三	二三
二四	一	一	一	一		一	一	一	一
四三	一	一	一	一		二	三	三	三
一六	一	一	一	一		一	二	二	二
三〇		二	一	二〇	七				
六		一	一	三	一				
五				五					
一				一					

- 二 施行期日
- (イ) 地方表彰 昭和十九年十一月三日各所屬長官ノ定ムル所
ニ依リ實施スルモノトス
- (ロ) 中央表彰 昭和二十年二月十一日各所屬長官ヲシテ傳達
セシム其ノ實施方法ニ付テハ該長官ノ定ムル所ニ依ル
- 三 中央表彰候補調書
到達期日 昭和二十年二月十日

一四一三

四 表彰セラルベキモノノ勤績年數計算期日

地方表彰 昭和十九年十月三十一日

中央表彰 昭和二十年一月三十一日

五 艦營備入ノ表彰ハ海軍勤勞功章令施行規則第九條ノ規定ニ拘ラス所屬艦船部隊ノ所管鎮守府司令長官第一號ノ割當員數ノ範圍内ニ於テ之ヲ實施スルモノトス

六 海軍ノ事業ニ使用セラルル船員又ハ其ノ團體ニシテ特別表彰事項ニ該當シ特ニ今期普通表彰ニ際シ表彰スルヲ適當ト認ムルモノアルトキハ第一號所定ノ員數外トシテ所定ノ手續ヲ爲スモノトス

七 工場事業場ノ經營者又ハ經營擔當者ノ個人表彰ハ特ニ團體表彰員數ト區別シ割當セザルヲ以テ第一號割當員數ノ範圍内ニテ之ヲ實施スルモノトス

官房教機密第四六五號

官房教機密第二七六號中左ノ通告正ス

昭和十九年十月二十四日

第五號ヲ左ノ如ク改ム

五 報告(通報)

本講習ニ對スル報告六年二回ニ分チ六月及十二月之ヲ提出スルモノトス

(参照) 内令提要卷二、五五六ノ五頁

内令提要
受登載

海軍大臣

○ 雜 談

○事務開始

大阪海軍刑務所ハ八月一日ヨリ大阪市北區玉江町一丁目二十四番地大阪備警府軍法會議内ニ於テ事務ヲ開始セリ
(大阪海軍刑務所)

○正誤

十月十八日秘海軍公報第四八二九號令達關海軍工員戰時特例給與規則第三十五條中「給料、増給」ハ「給料」ノ誤

○本日海軍公報發行セズ